明治大学体育会ソフトテニス部

2025 年度事業報告

OB・OG、保護者並びに関係者の皆様の多大なるご支援に感謝！！！

資料提供　協力　明大スポーツ新聞部

ソフトテニス・ナビ

明治大学ソフトテニス部 “前へ” 常に挑戦する

加納明彦　部長

明治大学は、封建的な社会から近代社会へと変容する時代に、個人の権利を確立し、自由な社会を実現するために、フランス法学を教授する明治法律学校として、1881（明治14）年に創立されました。学部の増設にともなって総合大学となった現在でも、創立時からの伝統によって確立された建学の精神「権利自由、独立自治」に基づき、自由と自治の精神を養うことを明治大学の理念としています。

この基本理念を140年にわたり受け継ぎ、どの時代にも社会をリードし、新しい価値観を創造し、挑戦してきました。さらに、21世紀の未来を見据え、明治大学は「世界へ―「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ―」を大学基本理念として付加するとともに、「知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現する」を使命とし、教育・研究・社会貢献等に取り組んでおります。

このような中、明治大学体育会ソフトテニス部は、今年度創部百二十周年を迎えました。創部以来、世界選手権大会優勝をはじめ多くのアスリート並びに指導者を送り出し、挑戦することが未来を切り開く「前へ」を合言葉に輝かしい歴史を築いてきました。

平成30年・令和5年に男子が、令和4年に女子部が全日本学生大学対抗戦の優勝を果たしました。

現在、部員は男子21人、女子8人と少数精鋭のクラブとして全国に存在感を示しております

今後も全日本大学対抗戦優勝を目標に、「常に挑戦すること」「情熱をもって取組むこと」を念頭に部員一同練習に励んで参りますので、皆様方のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

チーム目標

全日本大学対抗戦の優勝を目指します。

部活動を通して個性豊かで社会に貢献できる人を目指します。

部員の心構え

◆文武両道

◆努力目標は高く大きく

◆言葉ではなく行動で範を示す

◆何事にも真摯に立向い責任を全うする

◆コミュニケーション能力の拡充

◆規律の徹底

チーム理念

“本質への追及”と“限界への挑戦”

斉藤孝弘監督の教え「感謝と思いやりの行動」こそ、真のアスリートを育てる秘訣である。さらに「本質への追及」「限界への挑戦」を常に指導された。本質への追及とは、迷ったら初心の戻ること、限界への挑戦は自分で限界を作らず、苦しいことにも選手が自発的に進んで取り組むことである。

斉藤監督は明治大学ラグビー部の故北島忠治先生を尊敬しており、ラグビー部の理念である「前へ」の影響を色濃く受けた。基本に忠実である「本質への追及」と、前へのチャレンジ精神である「限界への挑戦」という理念を築き上げ、学生の指導にあたられた。これが今でも明治大学体育会ソフトテニス部の理念として引き継がれている。

指導者

総監督　櫻井智明

（一社）日本学生ソフトテニス連盟　会長

関東学生ソフトテニス連盟　相談役

男子監督	北本	英幸	平成 3 年卒
女子監督	太田	博勝	昭和 52 年卒
コーチ	豊田	裕樹	平成 13 年卒
コーチ	成田	悠	平成 25 年卒
	吉村	寛子	平成 28 年卒
トレーナー	関根	諒太	
	中村	裕美	

2025.8.30～9.1　全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 男子３位、女子２位

関東オープン

◆4月12日・29日　（男子　千葉県総合スポーツセンター・駒澤オリンピック公園テニスコート、女子　狭山市智光山公園テニスコート）

今年度初めての大会、毎年大学生の春合宿が終わり、学生の上位進出が目立つ大会だが、男子の坂口・小山ペアが第3位と、ルーキーながら力を発揮した。

男子　坂口・小山　第3位

▼男子

2回戦進出

上村・貝瀬、藤崎・是枝、藤原・大滝、中山・半澤

3回戦進出

小宮・木内

4回戦進出

間庭・佐藤、中村悠・岡田、米川・中原、辻花・上田

第3位

坂口・小山

▼女子

2回戦

大槁・中谷

3回戦進出

西山・北川、前田・青松、大釜・大野

※雨天順延となり、学連大会と重複したために棄権

東京六大学春季リーグ戦・選手権大会

◆4月20日～21日　東京六大学春季リーグ戦（早稲田大学テニスコート）

男子第4位　女子優勝

新入生が加わっての初めての団体戦で女子が見事優勝した。

男子リーグ表

大学名	法政	早稲田	立教	明治	慶應	東大	勝点	順位
法政大学	ー	⑤	④	⑤	⑦	⑦	5	1
早稲田大学	2	ー	④	④	⑦	⑦	4	2
立教大学	3	3	ー	④	⑤	⑦	3	3
明治大学	2	3	3	ー	⑥	⑦	2	4
慶應義塾大学	0	0	2	1	ー	⑥	1	5
東京大学	0	0	0	0	1	ー	0	6

女子リーグ表

大学名	早稲田	明治	立教	法政	東大	慶應	勝点	順位
早稲田大学	ー	1	③	②	③	③	4	2
明治大学	②	ー	③	③	③	③	5	1
立教大学	0	0	ー	②	③	③	3	3
法政大学	1	0	1	ー	②	③	2	4
東京大学	0	0	0	1	ー	①	0	5
慶應義塾大学	0	0	0	0	1	ー	0	6

◆5月5日　東京六大学選手権（早稲田大学テニスコート）

男子　坂口・小山　第2位

中村悠・岡田　第3位

女子　大槁・青松　第2位

西山・北川　第3位

▼男子

1回戦敗退

藤原・大滝、小宮・木内、中山・半澤、間庭・佐藤、中村奏・熊木（法政）

2回戦進出

上村・貝瀬

3回戦進出

辻花・上田

ベスト8

米川・中原

第2位

坂口・小山

第3位

中村悠・岡田

▼女子

2回戦進出

大釜・大野

第9回アジア選手権大会代表予選会

◆4月26日～27日（仙台市青葉山テニスコート）

本学からは、男子　坂口・小山、女子　前田・中谷、大槁・大野、西山・青松が出場。そして前田・中谷が優勝、日本代表入りが確定！

▼男子

坂口・小山

予選リーグ2位通過、決勝トーナメント1回戦敗退

▼女子

大槁・大野

予選リーグ2位通過、決勝トーナメント2回戦敗退

西山・青松

予選リーグ2位通過、決勝トーナメント1回戦敗退

日本連盟 HP より引用

関東学生シングルス選手権大会

◆5月3日～4日（川口市青木町公園総合運動場　他）

男子　坂口生磨、小山寛晴がベスト8でインカレ出場を決める

女子　前田梨緒第2位、青松淑佳、中谷さくらがベスト8でインカレ出場を決める

▼男子

1回戦

大滝展功、中山秀哉、木内陸人、上村元希、佐藤亜結夢、藤原知洋

2回戦進出

中村奏太、岡田侑也、貝瀬煌、中原壮琉、半澤寧大

3回戦進出

藤崎広大、辻花陸、小宮彰悟、上田泰大

4回戦進出

中村悠峰、間庭賢人、是枝元貴

5回戦進出

米川雅翔

▼女子

1回戦

北川アンナ璃咲

2回戦進出

大釜彩乃

3回戦進出

大槁玲雨

4回戦進出

西山なつみ、大野栞

ベスト8

青松淑佳、中谷さくら

第2位
前田梨緒

関東学生春季1部リーグ戦

◆5月10日・11日（白子サニーテニスコート）

▼男子　第3位

悪天候の中行われた大会1日目。日体大との初戦に臨んだ。両者一歩も譲らぬ白熱した戦いは、5番手の辻花陸（営4＝能登）・上田泰大（商3＝尽誠学園）ペアまでもつれ込んだ。「雨風に上手く対応できず、相手の流れになってしまった」（辻花）と相手に終始リードされる展開が続き敗北し、2―3で惜敗を喫した。続く2戦目の相手は中大。1番手の米川雅翔（農2＝尽誠学園）・中原壮琉（政経4＝熊本マリスト）ペアが勝利し迎えた2番手の岡田侑也（農3＝とわの森三愛）・中村悠峰（営3＝能登）ペア。「風上のときはしっかりコントロールしてコートに入れていき、風下のときは強気に攻めた」（岡田）と強烈なボレーが突き刺さり快勝を収めた。その後、坂口生磨（商1＝尽誠学園）・小山寛晴（法1＝尽誠学園）ペア、辻花・上田ペアもお互いに息の合ったプレーで相手を寄せ付けず。中大を4―1で破り、リーグ戦初勝利。大会初日を1勝1敗の2位で終えた。

1日目の日体大戦に続き接戦となった法大戦。1番手の米川・中原ペアは息の合った連携で勝利した。しかし、続く2、3番手は自分たちのプレーをさせてもらえず、敗戦。4番手の坂口・小山はレシーブから積極的な攻めを展開し、試合の命運は5番手の辻花・上田ペアに委ねられた。サーブアンドボレーから得点を重ねていき接戦に持ち込むも2―3で敗戦を喫した。強い日差しが照りつける中行われた早大戦。1―2と苦しい展開で4番手の岡田・中村ペアへとまわる。「いいリズムをつかめない中、中村が決めてくれたおかげで、2人で1本を取れた」（岡田）と前衛同士の対決で苦戦するも5―4で勝ち切った。その勢いのままに辻花・上田ペアも勝利し、3―2で2日目初勝利を飾った。春季リーグ最終戦の対戦相手は國學院大。1、2番手は最終戦でも集中力を切らさず、勝利した。3番手の是枝元貴（理工3＝桐蔭学園）は「とにかく粘り負けだけしないことを意識した」と粘り強さを発揮し4―1で勝利。4番手の坂口・小山ペアは敗れたものの、5番手の辻花・上田ペアは「しっかりと自分のテニスで終わることができ、次につながる試合だった。」（辻花）と正確なプレーで、快勝。4―1で勝利し、今大会を締めくくった。

もう一度王座に返り咲くことを目標に挑んだ今大会は全体3位で幕を閉じた。この経験を糧に男子ソフトテニス部の新たな挑戦は続く。［早坂春佑、吉澤真穂］

男子1部リーグ	早稲田	法政	明治	日体大	國學院	中央	勝率
1　早稲田大学		0	2	0	2	2	0/5
2　法政大学	⑤		③	2	③	④	4/5
3　明治大学	③	2		2	④	④	3/5
4　日本体育大学	⑤	③	③		④	⑤	5/5
5　國學院大學	③	2	1	1		③	2/5
6　中央大学	③	1	1	0	2		1/5

▼女子　優勝

「団体として一戦も落とさずに全勝優勝することが目標」（中谷さくら・政経2＝須磨学園）と熱い思いで迎えた今大会。初戦は東女体大との一戦に。雨風吹き荒れる中でも自身のペースを乱されず。前田梨緒（商2＝須磨学園）・中谷ペアが先勝すると、勢いそのままに2番手、3番手も勝利し3―0と完勝を収めた。2戦目の早大戦では「向かってこられる立場だから

こそ受けに回らずファーストタッチから攻めた」（中谷）と空いたスペースへのボレーを有効的に用い快勝。２番手の青松淑佳主将（政経４＝昇陽）は接戦に持ち込まれるも相手を振り切ると西山なつみ（政経３＝昭和学院）・北川アンナ璃咲（商４＝京都光華）ペアも勝利し、２試合連続のストレート勝ち。２連勝で初日を終え、優勝に向けて上々のスタートを切った。

日差しが照りつける中行われた２日目。初戦となった国学院大戦は前日の勢いのままに３―０で勝利を収める。続く東経大戦では、１番手に、大野栞（法３＝昭和学院）・大橋玲雨（営１＝三重）ペアを起用。試合中盤のラリーで相手に流れを許し、敗戦を喫した。２番手の青松淑佳（政経４＝昇陽）は、主将としての意地を見せつけストレートで勝利し試合はイーブンに。３番手のダブルス戦では、前衛・中谷と後衛・前田の息の合った連携を見せるも試合はタイブレークの末、あと一歩及ばず惜敗した。

優勝を懸けて臨んだ日体大戦。西山・北川ペアは敗北を喫したものの、青松がまたもやストレートで快勝。「全試合誰に当たっても倒しにいこうという思いだった」（青松）という言葉通り、女子では今大会唯一の全勝賞を獲得した。さらに、２試合目で苦い思いをした中谷・前田ペアは、２ゲームを先行される苦しい展開も、相手のスキを逃さず。中谷の強気なボレーが炸裂し、勢いそのままに勝利し、優勝を決めた。前田は「大学に入って初めてリーグ戦で優勝できてうれしい」としつつも「新たに課題が見つかったし、反省すべき部分もあるので詰めが甘かった悔しさもある」（前田）とストイックな姿勢を見せる。明大ソフトテニス部のさらなる飛躍に期待したい。　［早坂春佑、近藤未怜］

女子1部リーグ	日体	明治	國學院	早稲田	東女体	東経	勝率	順位
1　日本体育大学		1	②	③	②	③	4/5	2
2　明治大学	②		③	③	③	1	4/5	1
3　國學院大學	1	0		1	③	③	2/5	3
4　早稲田大学	0	0	②		1	②	2/5	4
5　東京女子体育大学	1	0	0	②		②	2/5	5
6　東京経済大学	0	②	0	1	1		1/5	6

関東学生選手権

◆５月１２日・１３日（白子サニーテニスコート　他）

前田・中谷が優勝。インカレの予選会を兼ねている大会であり、男子は２枠、女子は全ペアが出場枠を獲得した。

▼男子

２回戦進出

藤原・大滝、上村・貝瀬

３回戦進出

米川・中原、中山・半澤、藤崎・是枝

４回戦進出

間庭・佐藤、小宮・木内、辻花・上田

５回戦進出

中村悠・岡田

ベスト１６

坂口・小山

▼女子

４回戦進出

西山・北川、大釜・青松

ベスト１６

大橋・大野

優勝　前田・中谷

全日本シングルス選手権

◆5月17日・18日　（宮崎県生目の杜運動公園・清武運動公園）

本学からは男女5名ずつが出場。上位進出は果たせなかった。

▼男子

1回戦　上田泰大

2回戦進出　岡田侑也

3回戦進出　米川雅翔

4回戦進出　坂口生磨

5回戦進出　小山寛晴

▼女子

3回戦進出　大野栞

4回戦進出　大槁玲雨、青松淑佳

5回戦進出　前田梨緒、中谷さくら

関東選手権

◆5月24日・25日　（茨城県神栖海浜公園）

男子6ペア、女子4ペアが出場。男子は坂口・小山がベスト8、女子では大槁・中谷が第3位入賞。

▼男子

2回戦進出　辻花・上田

4回戦進出　中村・岡田、中山・半澤、間庭・佐藤

5回戦進出

ベスト16　米川・木内

ベスト8　坂口・小山

▼女子

5回戦進出　前田・大野

5回戦進出　西山・北川

ベスト16　大釜・青松

第3位　大槁・中谷

全日本大学王座決定戦

◆6月7日・8日（愛知県いちい信金アリーナ）

▼女子　第2位

1日目

予選リーグ

○明大③―0東北学院大

○明大③―0北翔大

2日目

準決勝

○明大②―0福岡大

決勝

明大1―②神戸松蔭大○

愛知県にて全日本大学王座決定戦（王座）が開幕。女子部は関東王者として王座に初出場し、予選リーグでは東北学大と北翔大とのマッチアップに。慣れない体育館での試合ということもあり選手たちは難色を示したが、初戦となった東北学大戦でも強さに陰りはなかった。1番手中谷さくら（政経2＝須磨学園）・前田梨緒（商2＝須磨学園）ペアは「体育館に慣れないこともあったが武器であるストロークでしっかり攻めていけた」（前田）と果敢（かかん）に攻めていき完勝。続く青松淑佳（政経4＝昇陽）や西山なつみ（政経3＝昭和学院）・北川アンナ璃咲（商4＝京都光華）ペアも快勝を収め3―0で好スタートを切った。そして、北海道地区王者・北翔大との一戦。「普段からコミュニケーションをしっかりとっていてお互いに意見を言えるいい関係性を築けている」（西山）と語る西山・北川ペアはお互いに息の合ったプレーで得点を重ねストレート勝ちを決める。その後青松、中谷・前田ペアも1戦目でつかんだ感覚を生かし、この試合も相手を圧倒してみせた。勢いそのままに3―0で勝利を収め、2連勝で予選リーグ1位突破を決めた。

大会2日目、明大はシードのため準決勝・福岡大戦から出場。ここでも明大の勢いに陰りはなかった。前田の強烈なフォアハンドに、中谷のボレーが突き刺さり中谷・前田ペアが快勝を収めた。2番手の青松は自身のミスもあり接戦の展開が続き、試合はファイナルゲームへともつれ込む。そこでも集中力は途切れることはない。ストロークではスペースを狙った鋭角なショットに相手の意表を突くカットでペースをつかんでいった。最後は強打で相手のミスを誘い勝利。青松は接戦をモノにした喜びから、渾身のガッツポーズを見せた。2―0で福岡大を下し、決勝へと駒を進めた。

準決勝から約2時間後に始まった決勝では、昨年度インカレ王者・日体大を破り勢いのある神戸松蔭大との一戦に。中谷・前田ペアは第1ゲームを先取すると勢いそのままに終始リードを奪われず。最後は中谷のレシーブエースで勝負あり。幸先よく勝利し、優勝へと王手を掛けた。2番手の青松も序盤からリードをつかむ。3―2と優勝が目の前に迫った中、本間（神戸松蔭大）のフォアハンドが冴えわたる。相手の粘りに押され、試合はファイナルゲームへともつれ込んだ。両者の一進一退の攻防はここでも続く。だが2―2の同点からレシーブミスでリードを許すとそこから相手に得点を重ねられてしまう。バックストレートへの打球に反応できず、3―④で惜敗に終わった。この試合について太田博勝監督は「両者いいプレーをしていたし、紙一重の差だった」と振り返り、青松の活躍を称えた。そして、チームの命運は西山・北川ペアへと託された。先手を取ってゲームを進めたいところであったが、相手のダブル後衛にラリーを支配され後衛の西山が左右に揺さぶられる時間が長く続く。「プレッシャーがかかっていつもだとミスらないようなボールをミスしてしまった」（北川）と相手にゲームポイントを握られた場面でも得意のボレーにまさかのミス。2―⑤で敗北し、チームもあと一歩及ばず。選手たちの表情からは悔しさがにじむも、初出場ながら堂々の準優勝に輝いた。

準優勝を飾るも「（今年度は）どの大会でもチームの誰かがタイトルを取るという感じで今年来ていた中でそれが一旦途切れてしまったのはとても悔しい」（北川）と決してこの結果に満足しているわけで

はない。彼女たちの思いは〝インカレ優勝〟ただ一つ。「インカレに向けて、チームでミーティングを繰り返していき優勝を狙えるように頑張っていきたい」（青松）と強く意気込んだ。［早坂春佑］

全日本ミックスダブルス選手権大会

◆6月14日・15日（広島翔洋テニスコート）
本大学からは、男子7人女子6人が出場、入賞ならず

1回戦
中村悠・前本（ダンロップ）
2回戦進出
辻花・縄田（ダンロップ）
岡田・近藤（ダンロップ）
北川・草野（田村高校）
3回戦進出
髙本（東芝姫路）・木内、大槁・上田
4回戦進出
坂口・青松
ベスト16
西山・小山
ベスト8
矢野（NTT西日本）・中谷
前田・上松（NTT西日本）

東日本大学対抗競技大会

◆7月5日～9日（千葉県白子町サニーテニスコート　他）
男子はAチームが法政大Aに3次戦で敗れベスト8、女子は決勝で日体大Bに敗れ、2位に終わる。
▼男子
2回戦進出　明治大学C
3回戦進出　明治大学B
ベスト8　明治大学A
▼女子
第2位

東日本学生選手権大会

◆7月10日、11日（千葉県白子町サニーテニスコート　他）
男子、3ペアがベスト32、インカレ枠獲得で全員がインカレダブルス出場となる。女子、大槁・青松が優勝。大槁は1年生でタイトル！
▼男子
1回戦
藤原・中村奏
2回戦進出
間庭・佐藤、上村・貝瀬、中山・半澤
3回戦進出
中村悠・岡田、小宮・木内
5回戦進出
米川・中原、藤崎・是枝、坂口・小山
ベスト8
辻花・上田
▼女子
2回戦進出
前田・中谷
3回戦進出
大釜・大野
4回戦進出
西山・北川
優勝
大槁・青松

東日本学生シングルス選手権大会

◆7月12日（千葉県白子町サニーテニスコート　他）
男子、米川が強豪を倒して1年生ながらベスト8進出、女子は青松が優勝。ダブルスと2冠達成！
▼男子
3回戦進出
辻花陸、是枝元貴、藤原知洋
4回戦進出
中山秀哉
5回戦進出
藤崎広大
ベスト8
米川雅翔

▼女子
2回戦進出
大釜彩乃、大槁玲雨
4回戦進出
西山なつみ
5回戦進出
大野栞
優勝
青松淑佳

東日本選手権

◆7月19日、20日（富山県岩瀬スポーツ公園、高岡スポーツコア）
男女4ペアずつ出場。残念ながら上位進出ならず。
▼男子
2回戦進出　坂口・小山
4回戦進出　辻花・上田
5回戦進出　米川・中原
ベスト16　中村悠・岡田
▼女子
3回戦進出　大槁・大野
ベスト16　前田・中谷、大釜・青松
ベスト8　西山・北川

全日本大学対抗選手権

◆8月30日～31日　全日本大学対抗選手権（千葉県総合スポーツセンター、高浜庭球場）
▼男子　第3位
全日本大学対抗選手権が千葉で開催。『インカレ制覇』へ、男子部の戦いが始まった。初日は全試合で快勝を収め、2日目へと駒を進める。2日目初戦の早大戦を快勝で好スタートを切るも絶対王者・日体大に敗れ、3位入賞で幕を閉じた。
1日目
○明大③―0東京都立大
○明大③―0広島修道大
○明大③―1同志社大
2日目
○明大③―1早稲田大
明大1―③日本体育大○

目標とする『インカレ制覇』へ、サポーターの期待を一身に背負う明大ソフトテニス部男子は好調な滑り出しを見せた。都立大、広島修道大に快勝し、順調にコマを進めた明大が苦戦を強いられたのはノーシードで勝ち上がってきた同志社大。初日の最終試合となったこの一戦では、相手の一丸となった声援に苦しまされる。1番手は中村悠峰（営3＝能登）・岡田侑也（農3＝とわの森三愛）ペア。中村のボレーや岡田のキレのあるサーブが光り、ストレートで相手を下した。しかし、2番手の上田泰大（商3＝尽誠学園）・米川雅翔（農1＝尽誠学園）ペアはサーブがなかなかフィットせず失点を重ね、まさかの敗戦を喫するが、続く坂口生磨（商1＝尽誠学園）・小山寛晴（法1＝尽誠学園）ペアの快勝で流れを取り戻す。そして4番手には中村・岡田ペアが再び登場し。両者譲らぬ戦いは、最終ゲームへともつれ込む。2点を先行された中でも中村、岡田ともに冷静さを欠くことはなく着実に得点を重ね、デュースへと持ち込んだ。会場の全員が勝負の行方を見守る中、白熱したラリーが続く。その中で岡田のライン上を狙いすましたショットが相手の逆を突き勝利へ王手を懸ける。岡田は渾身のガッツポーズを見せると、その勢いのままに最後は岡田が強烈な一打を炸裂させ、勝利をもぎ取った。

強い日差しが照りつけるなか行われたインカレ2日目。ベスト4進出に向けて早大戦との初戦に臨んだ。1番手の坂口生磨（商1＝尽誠学園）・小山寛晴（法1＝尽誠学園）の1年生ペアは坂口の相手の意表を突くフォアハンドやミスを誘うサーブがさえ渡り快勝を収めた。2番手の岡田侑也（農3＝とわの森三愛）・中村悠峰（営3＝能登）ペアは両者一歩も譲らぬ接戦となったが最後は息のあったプレーで勝利し、チームを勢いづけた。3番手の辻花陸主将（営4＝能登）・上田泰大（商3＝尽誠学園）ペアは3ゲームを連取するもチャンスをものにすることができず惜敗を喫した。「インカレならではの雰囲気に緊張し、思うようなプレーができず、気持ちの面での準備が足りなかった」（上田）とインカレという舞台での難しさを痛感させられた。2次戦にまでもつれ込んだ早大戦は坂口生磨（商1＝尽誠学園）・小山寛晴（法1＝尽誠学園）の1年生ペアに託された。初戦の勢いそのままに、坂口の強烈なスマッシュと小山の冷静なボレーで終始相手を翻弄（ほんろう）させるプレーで勝利を収め、ベスト4進出を決めた。
準決勝に駒を進めた明大の相手は、昨年度惜しくも敗戦した日体大。雪辱を果たしたい明大だがまたしても高い壁が立ちはだかった。1番手に登場した辻花・上田ペアは、「ダブルフォワードを相手に練習することが多かったので、うまく対応できた」（辻花）と対応力の高さで勝利を収めた。2番手の岡田・中村ペアは、緩急あるストロークと空いたコースを突くボレーで揺さぶるも相手の対応力の高さが上回り敗戦した。3番手の坂口・小山ペアは、終始リードされる展開となり、勝利をものにすることができなかった。絶対に負けられない場面となり、託されたのは辻花・上田ペア。相手に3ゲーム取られた状況でも2ゲームを連取し、粘りのプレーを見せた。「昨年度のインカレで負けた相手で、勝ちに対する強い思いがあったが、序盤から弱気になってしまった。しかし、攻めでのミスはOKという風に攻めの姿勢で挑んだ」（上田）と強気で臨んだものの、日体大の意地を見せられ敗北を喫した。

3位でのフィニッシュと悔しさこそ残る大会となったものの、下級生の活躍が目立ち今後に期待のかかるインカレとなった。来年こそ『インカレ優勝』へ。今夏の悔しさを来夏で晴らす。

［近藤未怜、吉澤真穂］

▼女子　第2位

今年度の全日本大学選手権（インカレ）は準優勝で幕を閉じた。それでも、創部史上初の全日本大学王座決定戦準優勝など多くの大会で表彰台へ。昨年度低迷したチームを立て直し、今年度躍進を遂げた立役者の2人の4年生にインタビューを行った。

1日目

○明大③―0摂南大

○明大③―0大阪成蹊大

○明大③―1立命館大

2日目

○明大③―0神戸松蔭大

○明大③―0福岡大

明大2―③日本体育大○

今回は昨年度の不振を乗り越え、ラストイヤーで大輪を咲かせた青松淑佳（政経4＝昇陽）主将のインタビューをお届けする。

（この取材は9月17日に行ったものです）

――インカレを振り返っていかがですか。

「結果としては素直に悔しいですし、目標に届かず悔いが残る結果でした」

――学校対抗準々決勝では神戸松蔭大に王座のリベンジを果たしました。

「神戸松蔭に勝つというのは、一つの通過点として大きく考えていて、神戸松蔭に対する対策練習もいっぱいしてきた中でみんながしっかり勝ち切れて自分たちはレベルアップしているんだなという自覚も個々に出てきてチームとしてまとまった感じはありました」

――勝っている中でサスペンデッドゲームが宣告され、試合が翌日に流れたときにチームに何と声を掛けましたか。

「相手は間違いなく覚悟を決めてくるだろうから、こっちが向かっていく気持ちを忘れたらもう負けだなと。受けて立つと負けやから、ちゃんと向かっていこう、まだ何があるかわからんからという話はしました」

――ペアを組んだ大橋玲雨選手（営1＝三重）との相性はいかがですか。

「大橋自体が上手いし、それに私もすごく合っていたなと思う部分と、まだまだもっとやれたな、ペア力をもっと上げることができたなと思う部分の両方があります」

――まだまだやれたなと思う部分は何になりますか。

「ダブルスは後衛の方が球打つ数は多くて、それでも打たないといけない。大橋が打たされる場面になったら相手前衛もうまく駆け引きしてくるので、そうなったときに2人で戦う策がこっちから攻めることばっかりだったので、守る策が少なかったと思います」

――個人戦の結果についてはいかがですか。

「ダブルスの準決勝の天間・左近（日体大）戦は絶対に勝ちたかったところですし、勝てたところなのですごく悔しいですが、シングルスに関してはもっと勝ちたかったです。体が動かなかったですが、そんなことは言い訳で相手の雰囲気も違って2歳下の子で7回目の対戦で勝率は私の方が良かったのですが、相手も作戦を変えてきてそこに対応できずという感じでした。自分の中では、本当に3位も悔しい結果です」

――太田博勝監督との関係性についてはいかがですか。

「発言から前々はプレッシャーに感じる部分もあったのですが、今はもう絶対的な味方なので落ち着くし、別に発言一つ一つにいい意味で圧を感じたりもしないし流せます。いい関係を築けています」

――昨年はメンタル面をチームの課題に挙げていましたが、克服へどのような取り組みをされましたか。

「団体戦となると個人戦とは違う雰囲気やムードで実力以上の力を出せたりすることもあるので、メンタル面を鍛える時にチーム力というのを上げていこうと思って、ミーティングやチームで行う取り組みを増やして今までやってきました」

――チーム全体としてメンタルの弱さをどの場面で感じることが多くありましたか。

「チームみんなで戦っている感じがなくて、一人一人が緊張して、でもそれを周りが上手く助けられなくてパニックになって実力を出せないというところです」

――課題については新チームになる前から感じていましたか。

「元々は自分の課題でもあったのですが、主将になったからこそ余計それが強化すべきポイントだなと明確になった感じです」

――3年では個人として苦しんだ中、今年は飛躍しましたがその要因は何だと思いますか。

「1、2年のころにいい成績を残せていたのに、3年になってからはタイトル一つも取れていなくてそこで自分を見失いました。でもそこから、自分から逃げずにメンタル面も技術面もフィジカル面も全て向き合うことにして、自分軸で練習を進めてきました。それが今年の成績につながったという感じです」

――春リーグ優勝後は優勝から遠ざかりましたがチームのムードはいかがでしたか。

「優勝は遠のきましたけど、最終的に最大の目標としていたのはインカレ優勝だったので東カレや王座で準優勝だったことに関してもそれほど落ち込むこともなく、

みんなが絶対に優勝できるっていうのを信じ続けてインカレに挑めたので、その通過点の結果を気にするというよりはみんなが最後まで信じてくれていました」

――王座ではあと一歩のところで優勝を逃しましたが、そこから取り組みを変えたことはありますか。

「相手の分析を増やして、それに合わせた練習を具体的に増やしていきました」

――今年度好成績を残しましたが、４年生の働きがチームを変えましたか。

「４年がどうこうというよりはチーム全体として一人一人が自覚を持ってやってくれた結果だと思います」

――チームが少人数だからこその苦悩はありましたか。

「応援にどれだけ取り組んできても、応援の人数が大体負けることばっかりでした。得点を取られたときに静かに聞こえてしまったり、声を掛けているのに相手の応援に潰されることがあって、そういうところが少人数はしんどかったです。あとは、役割分担ですね。インカレの日も洗濯に３、４年が行ったり他大だったらもうベッド入っているだろうなというときも動いていました。でも、とても楽しかったです」

――チームが一つにまとまった要因は何になりますか。

「私の声かけがあったからではなくて、一人一人がとても向き合ってくれてみんなを信じてくれて、最後まで信じ続けてくれたことが、チームがまとまった理由だと思います」

――明大での４年間で成長した部分は何ですか。

「緊張やプレッシャー、不安がある中で戦えるようになったことがすごく大きいなと思っています。その戦えるようになった理由としては、最初は緊張で球が上手く打てなかったりもしましたが、みんなで戦っていることや今までやってきた自分を信じないのは自分に対して失礼だなと思い始めたからです。何より明治は支えてくれる人が多いので、そういう人たちを思い浮かべたりしながら練習してきた時間が本番緊張する場面でも自信につながってメンタル面は強くなれたと思っています」

――高校時代からメンタル面を課題に感じていましたか。

「高校時代からメンタル面は課題と感じていたのですが、大学に入るとＯＢＯＧがたくさんいて別の緊張感が１、２年の頃はありました。でも４年になると上手くコントロールできてきたなという感じです」

――明大にきてギャップはありましたか。

「とてもトレーニングをするな、と思いました。トレーニングをそもそも大学生はあんまりしないイメージでいたのですが、明治は他大以上にトレーニングしているんじゃないかなと思います」

――明大で過ごした４年間に点数をつけたら何点ですか。

「まだ終わっていないのですが、７５点です。いい部分というのは、成績を残せた部分もあって自分のキャプテンとして取り組んできたことが自分の財産になったし、いい経験ができたなと思うからですね。あと、チームで過ごした時間がすごく楽しかったので、それも大きいです」

――インカレ優勝の思いを託した下級生へのメッセージをお願いします。

「必ず来年優勝をしてほしいし、できると思うと伝えました。また、一番はその頑張る過程でいろいろな人への感謝を忘れてしまったら絶対にダメだからいろんな人の支えがあって、今、明治の選手としてコートに立てている幸せを感じながらやってほしいというのを伝えました」

――ありがとうございました。

［早坂春佑］

◆９月１日、２日　全日本学生選手権大会（千葉県総合スポーツセンター、高浜庭球場　他）

男子の中村悠・岡田が第２位と躍進、女子は前田・中谷が悲願の優勝、大槁・青松も第３位入賞！

▼男子

２回戦進出　中村奏・貝瀬

３回戦進出　小宮・木内、藤原・大滝、中山・半澤、坂口・小山

４回戦進出　藤崎・是枝、米川・中原

５回戦進出　間庭・佐藤

６回戦進出　辻花・上田

第２位　中村悠・岡田

▼女子

３回戦進出　大金・大野

５回戦進出　西山・北川

第３位　大槁・青松

優勝　前田・中谷

◆９月３日　全日本学生シングルス選手権大会（千葉県総合スポーツセンター、フクダ電子ヒルスコート）
男子坂口が第２位・米川が３位入賞。１年生が大活躍！

▼男子
１回戦　小山寛晴
第３位　米川雅翔
第２位　坂口生磨
女子
２回戦進出　西山なつみ、大野栞
４回戦進出　中谷さくら
４回戦進出　青松淑佳、前田梨緒

前田梨緒・中谷さくら
日本代表として第９回アジア選手権に出場！
国別対抗・ダブルスで優勝！

９月１５日～２１日　韓国・聞慶

▼ミックスダブルス
第3位　前田・上松（ＮＴＴ西日本）

▼女子ダブルス
優勝　前田・中谷

▼前田梨緒選手のコメント

「マッチポイントを獲った瞬間は本当に嬉しくて勝手に涙がこみ上げてきたんです。ここまでプレッシャーがかかる部分が多かったので余計に嬉しかったです。前川・宮前が準決勝で負けて『これは優勝するしかない』と思い、決勝戦に向けて気持ちが入りました。中谷とは普段から組んでいるということもありすごい安心感があります。２人の形はコートに入ったら自然にできますし、ペアリングに関しては不安要素は無かったです。いつも通り自分たちのプレーができました。私のボールが短くなったときに中谷にアタックがきてもボレーで止めてくれたことがすごい大きかったのと、前でたくさん動いてくれたのが自分としてもラケットを振り切れた要因になりました」

▼中谷さくら選手のコメント

「簡単に優勝できるとは思っていなかったし、簡単に優勝したわけではなかった。でも自分たちのペースで自分たちのプレーができてとても楽しかったし、なんか一生の思い出になる試合ができたなって思います。

勝ちたいけど勝つことがメインじゃなくて、その場を楽しみ、試合を楽しんでやりきるっていう気持ちで、どちらかというといつも通りの自分で大会に臨めました。

前田とはいつもペアを組んでいる

からぬるくなりがちだけど、直近のインカレとこの国際大会という主要大会ではしっかりお互いの気持ちを高め合えました。優勝できたのが前田とで良かったです。まだ国別対抗が残っているので、もうダブルスのことは忘れて一からまた金メダルを獲れるように頑張るので応援よろしくお願いします」

［ソフトテニスナビより引用］

▼国別対抗

アジアNo.1を決める決勝は、日本と韓国の対戦。

トップに出た前田・中谷ペアは、韓国のキム・ヨンファ／・キム・ユジンに対して常に先攻する形で試合が展開。中谷がコートを駆け回り相手にプレッシャーをかける。前田・中谷は表情に余裕を見せつつ⑤―1と快勝。

波に乗る日本は、個人戦シングルスで金メダルを獲得した天間が2番に出場。対する韓国は個人戦のリベンジに燃えるエース、イ・ミンソン。個人戦決勝の再戦となった注目の一戦は、天間が③―0とリード。ミンソンは引き下がらず自国の大声援も受けながら2ゲームを取り返す。韓国に流れが傾きつつあるようにみえたが、天間は冷静に試合を展開しミンソンの攻撃を食い止め、最後は④―2で勝利し日本の金メダルを決めた。

決勝で見事な勝利をあげた前田は、初代表だった昨年の世界選手権国別対抗決勝では自身がイ・ミンソンに敗れて優勝を逃すという悔しい経験をした。ペアの中谷は昨年は代表入りが叶わず今回が初代表として大舞台で個人ダブルス、団体の2冠という最高の結果をあげた。

JOC全日本ジュニア選手権大会

◆10月18日、19日（広島市広島翔洋テニスコート）

本学から男子の坂口、小山、米川がU20に出場。男子ダブルスで小山が第2位、シングルスで坂口が優勝、米川が第2位、小山が3位と全員入賞で大躍進！

男子ダブルス

1回戦　坂口・米川

第2位　森（日体大）・小山

男子シングルス

優勝　坂口生磨

第2位　米川雅翔

第3位　小山寛晴

関東学生新進大会

◆10月25日、26日、12月13日（立教、早稲田、東海、東京経済、國學院、各大学テニスコート）

▼男子

1回戦　上村・中村

3回戦　藤崎・貝瀬、間庭・長谷川（國學院大）

4回戦　米川・木内

ベスト8　坂口・小山

▼女子

ベスト16

大槁・中谷、前田・大釜

関東学生秋季リーグ戦

◆11月15日、16日（白子町サニーコート）

▼男子

関東学生秋季リーグ戦が開幕。初日を全日本選手権（インカレ）王者の法大に敗れるなど1勝2敗で終える。立て直したい2日目も終始リードを許す展開が目立ち2連敗。1勝4敗の5位に沈んだ。

立ち上がりから苦しい戦いとなった。國學院大戦では、風の影響で打球が思うように定まらず、惜敗。後に引けない重要な第2戦の相手は、昇格組・東海大。小宮彰悟（営3＝上宮）・木内陸人（営2＝上宮）ペアは、木内のボレーや左右に揺さぶる小宮のラリーで緩急あるプレーをするも相手のコースを突いたショットに打ち負かされた。続く上田泰大（商3＝尽誠学園）・米川雅翔（農1＝尽誠学園）ペアは、米川のネットをかすめる低い打球と上田のボレーが炸裂（さくれつ）。完璧に相手を崩し、勝利した。その後も3勝で勝ち越し、東海大相手に⑤―1で勝利を挙げた。最終戦の相手は、難敵・法大。シングルスで出場した坂口生磨（商1＝尽誠学園）は、インカレ決勝で敗れた橋場柊一郎（法大）と対決した。坂口は猛者相手にも怯まず、緩急あるバックハンドとキレのあるフォアハンドを多様に使い合わせ、粘り強いプレーを見せたが力及ばず敗れた。岡田侑也（農3＝とわの森三愛）・中村悠峰（営3＝能登）も1ゲーム先取されてから苦しい展開が続く。しかし、流れを相手に渡さず、岡田の強烈な一打や中村のサーブが光る。持ち味の息のあったプレーで勝利をつかんだ。この勢いのままいきたいところだが間庭賢人（農2＝東農大二）・小山寛晴（法1＝尽誠学園）ペアも法大の粘り強さに阻まれた。1―⑤と難敵の壁が大きく立ちはだかった。この結果、1日目を1勝2敗で終えた。

大会2日目の初戦はインカレで敗れた相手・日体大とのマッチアップ。米川・上田ペアが1―1に持ち込むも、続くシングルスの坂口が接戦をモノにできず惜敗。その後も日体大に圧倒され、1―4で敗北に終わった。

最終戦・中大戦も苦戦を強いられる。エースペアである中村・岡田が序盤からショットに安定感を欠き敗戦。米川・上田ペア、小宮・木内ペアはお互いに積極的に攻めていき、接戦に持ち込んだ。だがファイナルゲームでは相手に振り切られ、ともに4―⑤で惜敗を喫した。この結果、中大にはストレート負け。そして、今リーグ戦を1勝4敗の5位で終えた。

インカレでは3位に輝いていた。だが、新チームの初陣は苦しい結果に。この悔しさを糧に、大きな飛躍を期待したい。

［吉澤真穂、早坂春佑］

【男子リーグ表】

男子1部リーグ	日体	法政	明治	國學院	中央	東海	勝率	順位
1　日本体育大学		④	④	④	③	④	5/5	1
2　法政大学	1		③	③	④	④	4/5	2
3　明治大学	1	2		2	0	③	1/5	5
4　國學院大學	1	2	③		1	③	2/5	4
5　中央大学	2	1	⑤	④		④	3/5	3
6　東海大学	1	1	2	2	1		0/5	6

▼女子

関東学生秋季リーグ戦が開幕。初日を快勝で好スタートを切る。2日目も好敵手・日体大との一戦をストレート勝ちし、全勝優勝を果たした。また、関東学生春季リーグ戦との連覇を決めた。

照りつける秋の日差しの中、新チームで迎えた秋リーグ。初戦の相手は、関東学生春季1部リーグ戦開幕春リーグ)であと一歩及ばず敗戦した東経大。新チームでも抜群のコンビネーションをみせ、③―0と快勝した。2戦目の東女体大では、今大会シングルスとして出場した前田梨緒(商2=須磨学園)が終始、相手を揺さぶるプレーでストレート勝利。続く中谷さくら(政経2=須磨学園)・大槁玲雨(営1=三重)ペアは、ダブル後衛の相手から先に4ゲーム連取。相手の粘り強いプレーに阻まれ、なかなか決め切れない時間が続いたが、最後まで集中力を切らさず勝利を収めた。3番手の西山なつみ(政経3=昭和学院)・大野菜(法3=昭和学院)ペアも時折強く吹きつける風に苦戦しながらも3年生コンビが息のあったプレーで勝ち切った。息つく間もなく始まった早大戦では、中谷・大槁ペアが3ゲーム連取するも東女体大戦の疲れの影響が見られ、3ゲームを落とす。それでも、流れを取り戻し、接戦をモノにした。西山・大野ペアは、西山の強烈なフォアハンドや大野の鋭角なショットで奮闘したものの相手に一歩及ばず競り負けた。前田は冷静なプレーで試合を有利に進め、危なげなく勝利し②―1で快勝を飾った。「初めてシングルスに出場して、勝たないといけないというよりも自分がどういうテニスをできるかに集中できた」(前田)と振り返る。女子部の強さは新チームでも健在し、全勝で1日目を終えた。

國學院大戦では今大会初めて大野・大釜彩乃(政経1=昇陽)ペアが出場。全日本選手権では勝利を収めていたが、今試合は相手のエースペアに及ばず敗戦。続く、シングルスの前田、中谷・大槁ペアが快勝を収め②―1で危なげなく勝利を決めた。

最終戦は日体大との全勝対決となった。インカレ時には敗れた相手にリベンジを果たしたいところだ。1番手の中谷・大槁ペアは「お互い勝負強いから勝負どころをお互いがちゃんと決め切れたのは良かった」(中谷)とプレッシャー負けず⑤―2で勝利。全勝優勝へ王手をかけた中、前田へと明大の命運は託された。正確なストロークで相手を寄せ付けず。最後は前田のショットが相手のミスを誘って⑤―1で完勝。3番手の大野・西山ペアは1―4と崖っぷちに立たされる。だが「今までだと弱気になってしまい、負けてしまうことが多かったのですが、諦めずに最後まで攻めの気持ちを意識できた」とチームスローガンでる強気を体現。ビハインドでも果敢に攻め立て、⑤―4で接戦をモノにした。インカレでの借りをストレート勝ちで返してみせた。この結果、全勝優勝そして関東学生春季リーグ戦との連覇を果たし、選手たちは喜びをかみ締めた。また、前田、中谷・大槁ペアは全勝賞を獲得した。新チームで好スタートを切ったが、今年度逃したインカレのタイトルに向けて慢心はない。「他の大学もインカレへ技術を高めて向かってくるので、それに対して引くのではなく逆にもっと向かっていけるチームづくりをしたい」(大野)。もうその目は次を見据えている。

[吉澤真穂、早坂春佑]

【女子リーグ表】

女子1部リーグ	明治	日体	國學院	早稲田	東女体	東経	勝率	順位
1　明治大学		③	②	②	③	③	5/5	1
2　日本体育大学	0		②	②	③	②	4/5	2
3　國學院大學	1	1		1	②	1	1/5	5
4　早稲田大学	1	1	②		③	③	3/5	3
5　東京女子体育大学	0	0	1	0		1	0/5	6
6　東京経済大学	0	1	②	0	②		2/5	4

東京六大学秋季リーグ戦

◆10月12日～13日（早稲田大学テニスコート）
男女とも結果振るわず、東西対抗戦出場を逃す
男子第4位　女子第2位

男子リーグ表

大学名	法政	早稲田	立教	明治	慶應	東大	勝点	順位
法政大学	—	2	2	⑥	⑦	⑦	3	3
早稲田大学	⑤	ー	3	6	⑦	⑦	4	2
立教大学	⑤	④	ー	④	6	⑤	5	1
明治大学	1	1	3	ー	⑥	⑥	2	4
慶應義塾大学	0	0	1	1	—	④	1	5
東京大学	0	0	1	1	3	—	0	6

女子リーグ表

大学名	明治	早稲田	立教	法政	東大	慶應	勝点	順位
明治大学	ー	1	②	③	③	③	4	2
早稲田大学	②	ー	③	③	③	③	5	1
立教大学	1	0	ー	②	③	③	3	3
法政大学	0	0	1	ー	③	0	1	5
東京大学	0	0	0	0	ー	0	0	6
慶應義塾大学	0	0	0	③	②	ー	2	4

全日本選手権　天皇杯・皇后杯

◆11月6日～8日（有明テニスの森公園）
本学から男子は坂口・野本（法政大）、清水（同志社大）・小山、中村悠・岡田、女子は西山・北川、前田・中谷、大槁・青松が出場するが、入賞ならず。
▼男子
2回戦進出　坂口・野本（法政大）
4回戦進出　清水（同志社大）・小山
ベスト16　中村悠・岡田
▼女子
3回戦進出　西山・北川
5回戦進出　大槁・青松
ベスト8　前田・中谷

インドアシーズン　女子前田・中谷が連続入賞！

◆11月3日　全日本学生インドア（小田原アリーナ）
男子は中村悠・岡田、女子大槁・青松、前田・中谷が出場。前田・中谷が見事優勝し、2連覇を達成！
▼男子
予選敗退　中村悠・岡田
▼女子
優勝　前田・中谷

◆1月18日　ルーセントカップ東京インドア（東京体育館）
男子は中村悠・岡田が初出場、前田・中谷は3年連続の出場。
▼男子
予選敗退　中村悠・岡田
▼女子
第3位　前田・中谷

◆2月8日全日本インドア選手権大会（アスエアリーナ大阪）
男子は中村悠・岡田が初出場、前田・中谷は3年連続の出場。
▼男子
予選敗退　中村悠・岡田
▼女子
第3位　前田・中谷

東京六大学マスターズリーグ

2026年１月１１日（日）
立教大学富士見テニスコート

本学が大会３連覇！！！　OBOG も頑張りました。おめでとうございます。

大辻君・辻花君・中原君も参加

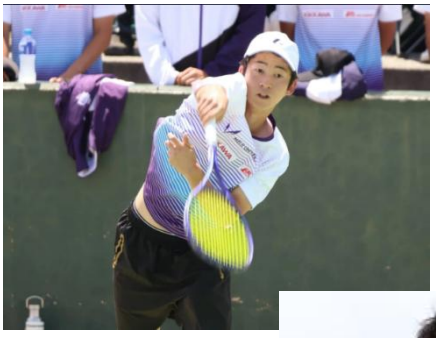
当部の地域貢献事業

小学生との交流（春合宿・日立市）

中学生との交流（生田）

清掃活動（合宿所周辺～生田駅界隈）

卒業生男子４人　女子２人　先頭に立ってチームを支えてくれました！



辻花　陸　経営学部

佐藤亜結夢　法学部

中原壮琉　政治経済学部

半澤寧大　農学部

北川アンナ璃咲　商学部

青松淑佳　政治経済学部

2025年度を振り返って
北本英幸男子監督

高い目標を掲げ、部員各々が練習やトレーニングに良く取り組んでくれたと思います。特に、中村悠・岡田、坂口、米川のインカレ個人戦での活躍は、努力の成果が結果に結びつくことを証明してくれました。

チーム全体としては、まだまだ伸びる要素・秘めた力があるので、毎日の取り組みを見直し、そして工夫して更なる向上を目指していきたいと思います。

2025年度を振り返って
太田博勝女子監督

千葉インカレでは、多数のＯＢ・ＯＧ、保護者の応援とご協力をいただきましたが、指導力不足で大変残念な結果になりましたことを、深く反省しつつ、来年度の熊本インカレで優勝を奪取できるように、万全に準備をさせたいと思いますので、今後ともご指導・ご協力をお願いいたします。

2025 年度 活動支援パートナー企業様

多大なるご支援を賜り、インカレ優勝という目標に向かって邁進することができました。心より御礼申し上げます。

株式会社ルーセント　様

株式会社キッカワ　様

明大スポーツ新聞部に感謝！感謝！

いつも素晴らしい記事を掲載して頂きありがとうございます。

これからも、よろしくお願いします。

明治大学体育会ソフトテニス部一同

編　集
明治大学体育会ソフトテニス部
〒214-0034　神奈川県川崎市多摩区三田２丁目 5417 番